

令和6年度 学校経営報告 <杉並工科高校>

都立杉並工科高等学校長 中里 真一

重点目標	当初の目標数値等	達成数値	成果と課題
学習指導の充実 (生徒の授業に対する満足度の向上)	①生徒の授業満足度 ②学習環境の充実 ③資格指導等の充実（英検、数検指導、工業系資格取得の指導 等）	①授業満足度については2,3年生では8割超であったが1年生だけを見ると6.5割と大きく下がった。 ②自習室の設置、朝学習の実施などは行えた。 ③英検週間、数検週間を設け指導の充実を図った。工業系資格に費えは2, 3年生だけではあったが大きく伸ばすことができた。	①2,3年生に向けた授業では満足度は低くないが1年生の満足度が低い。大学進学を意識した授業を充実させる必要がある。一方で伸び悩んでいる生徒を切り捨てない授業も充実させる必要がある。 ②自習室は完備しチューターも配置したが活用度は上がらなかった。活用度をあげていく工夫が必要である。また基礎力を定着させるための放課後等の指導も充実させる必要がある。 ③英検週間、数検週間を実施したことでそれぞれの合格者は確実に上昇した。英検3級以上23名、数検準2級23名。工業系の資格は延べ144名と大きく上昇した。
進路希望の実現 (キャリア教育の充実と進路希望の実現)	①進路内定 100％ ②キャリア教育の充実 インターンシップ（2年生） オープンキャンパス等への参加（1年生）	①進路内定 100％達成 ※ 昨年100％ 一時内定率も8割を超え例年以上に早く内定した。 ②インターンシップは2年生全員が参加し無事終了できた。1年生のキャンパス訪問は1年全員で参加し大学進学に向けての進路意識の醸成を図れた。	①進路内定については粘り強い指導の結果、今年度も100％となった。今年度は就職希望65％、進学35％であった。 ②インターンシップは2年生全員が参加し無事5日間の実施ができた。1年生の進路指導としては大学進学を意識醸成を中心にを行い、7月には1学年全員で法政大学へのキャンパス見学及び研究室見学を実施、11月には大学教授等による特別講義を受講した。4講座を開講し希望で2講座を受講。進学機運は高まった。
安心・安全な教育環境	①自転車ヘルメットの着用率の向上 ②遅刻者数減少の指導 ③中途退学者の減少 ④教育相談の充実	①ヘルメット着用については年度当初95％超であったが夏休み以降7割程度と減少してしまった。 ②毎朝の正門指導で遅刻者数は減少。秋以降微増。 ③中途退学者数4名、転学者数10名 ④生徒のSC活用数は増加。保健室等での教育相談も増加	①ヘルメット着用は1学期は95％が着用していたが夏休み明けから着用率が減少した。生活指導部からの呼びかけは続けてきたが一度下がった着用率はもとはには戻らなかった。着用率上昇のための指導方法の工夫が必要。 ②毎朝の正門指導でヘルメット着用と遅刻指導は行ってきた。 ③特に1年生では工業高校イメージで入学してきた生徒の不適合が目立ち転退学者が増加した。一部大学進学に不安を抱き転学した生徒もいた。 ④SCによる全員面談や教員からの相談も増加傾向にあり教育相談は定着してきた。また保健室の改善が図られ訪れる生徒も増加し教育相談の一助を担ってきた。
特別活動・部活動の充実	①学校行事等の満足度の向上 ②部活動の加入率の向上 ③地域との連携事業等の充実	①春の体育祭の満足度は悪くないが秋の文化祭への満足度が低い。その他の行事（修学旅行等）の満足度は高い ②部活動の加入率は7割と悪くないが活動実績が低い ③地域小学生の体験教室2回、高齢者スマホ教室の実施	①生徒数減少が少なくまた学科改編により2,3年生と1年生の学科が違つてくことで軋轢等を不安視していたが問題なく実施できてきた。文化祭では学習発表を色濃く出した1学年からの不満が多く満足度の低下につながった。一方で3年生の修学旅行や2年生での文化祭では満足度は高かった。 ②部活動加入率は65％となり伸び悩み活動の実績は年度途中で退部する生徒も出るなど低調である。柔道部や電子工作部、科学部、軽音部など一部の部活動は活発である。 ③地域小学校の5,6年生を招いての体験教室は好評であった。また初めての試みとして地域自治体と連携して高齢者スマホ教室を実施し生徒のサポートが非常に好評であった。次年度以降も続けていきたい。
広報活動の充実と募集対策	①学校説明会等の充実：参加者数の増加 ②HPやXの更新回数の増加 ③中学校訪問や外部での学校説明会の参加 ④募集倍率：1.1倍以上	①校内での学校説明会、体験入学等への参加者は800名を超えた ②HPの更新回数、Xへの投稿回数も昨年以上。閲覧件数も大幅増加 ③中学校訪問100校以上、外部での説明会200名以上 ④定員の充足率は41％と低調	○夏からの学校説明会では延べ900名を超えるなど昨年以上の参加者が集まり関心度の高さは感じられた。また秋からは高大連携先の法政大学も参加するなどより大学進学を意識した説明会を実施した。しかし充足率は大きく割れ低調に終わった。来年度以降の広報、募集対策の再検討が必要である。 ○HPやSNSの更新回数をあげ閲覧回数は大きく上昇し関心度は高まっていると感じた。更新回数の多い内容を精査しより関心を高められるよう工夫をしていく必要がある。
学校運営の改善	○ 分掌等の精査 ○ 企画調整会議の活性化 ○ 教職員のライフワークバランス	○ 委員会の精査 ○ 主幹会議の実施 ○ 時間外勤務時間の減少に取り組む	○校内委員会を中心に必要性などを精査し委員会の見直しを行った。結果2つの委員会を統合することにした。 ○将来検討をすることを目的とし主幹会議を実施することとした。12月から実施し計6回の主幹会議を開催。行事の在り方、委員会や分掌のあり方などを検討し企画調整会議に提案していく流れを作ることができた。 ○毎月85時間越えの職員はいるが数は減少してきている。要因としては週末の部活動や生徒引率が大きな要因である。今後改善の必要はある。